
岐阜県立各務原高等学校

学 校 長 高谷 信吾

学校住所 各務原市蘇原新生町2-6-3 電話 058-383-1015

1 会議の名称 岐阜県立各務原高等学校評議員会（第1回）

2 会議の構成 委 員

安積 武司	地域住民代表（坂井町自治会長）
鈴木 英巳	関係機関等代表（各務原市立中央中学校長）
大野 正博	学識経験者 （朝日大学大学院法学研究科長）
高橋 昌嗣	本校PTA顧問（元PTA会長）
福田 尚巳	関係機関等代表 （各務原市市長公室広報課(シティプロモーション担当)） （50音順 敬称略）

学校側	高谷 信吾	校長
	山本 和志	教頭
	中川 弘之	事務長
	立川 茂	教務主任
	浅見 和人	生徒指導主事
	関谷十糸子	進路指導主事
	梅野 剛	特別活動部長
	片桐 豊	渉外部長

3 会議の目的 岐阜県立各務原高等学校評議員会設置要綱に基づき、本校の教育方針と学校課題を説明し、本校の教育への提言を受ける。

4 会議の開催 平成30年6月27日（水）10:00～12:00
各務原高等学校教室、校長室
委員5人と学校側8人が出席

- 5 会議の概要
- (1) 委嘱書交付
 - (2) 授業参観
 - (3) 本校の教育方針と課題について

授業参観を通しての感想と意見・本校の教育への提言

意見 1

- ・生徒は前をきちんと向き授業を受けており、落ち着いた環境で学習に取り組んでいる。
- ・学校目標に対する各科の重点が整理されて実施されており、学校全体の規律や学習環境の整備がなされている。
- ・日本史Bにおけるアクティブラーニングの授業におけるグループ分けは、1グループ6人と人数が多いと発言しない生徒が出てくる。グループ分けを4人程度にしてグループ内で生徒全員が発言できる状況を工夫すると良い。
- ・中学生にとって、高校見学や学校説明会などの機会が増えたことはありがたい。
- ・各務原高校は昨年度の募集から普通科のみになった。他の普通科高校との違い(理数科や英語科を設置していた学校としての特色)が、中学生にもさらに分かりやすいものにして紹介してほしい。

意見 2

- ・昨年度よりも学校全体・生徒全員が落ち着きを増していると感じた。このことは、次の点による成果と考える。
 - ① 新入生に対する初期指導により、学習面や生活面での指導が充実しているため。
 - ② 殆どの生徒が授業に集中しているが、それは、朝学習や補習などの指導が充実しているため。
- ・英語と数学の分割授業は、生徒の基礎的かつ基本的な事項の理解に重点を置き、効果的になされている。
- ・日本史Bにおけるアクティブラーニングでは、全員が授業に参加できる形態になるような工夫の余地がある。例えば「反転学習」と言って、教材を先に配布し、生徒に家庭で学習させる。授業はそれを発表する場とするという方法もある。
- ・近年の生徒は、家庭で自学できない者が多い。いかに、家庭での自学ができる生徒を育成するかは、学校種に関係なく共通の課題である。
- ・生物の授業では、方言窓も交えユーモラスな展開の中、わかりやすい授業展開であり、基本的事項の理解ができるものであった。
- ・PTAへの配慮も十分になされていることを感じた。HPやクラッシーを用いるなど様々な形で、学校から保護者への情報提供が手厚くされていると感じた。

意見 3

- ・生徒は真面目に授業を受けている印象である。
- ・下校時、学校から離れた道端で大声で会話する生徒がおり、授業中の真面目な態度のように、周囲の迷惑を考える人間に成長してほしい。

意見 4

- ・今年から普通科のみになり、定員を超えたことが良かったのか、落ち着いた授業の雰囲気であった。今後、学校の活気が出ることを期待したい。
- ・普通科のみとしたことで、入学時に理数方面や英語方面などの選択を急がず、良い意味で学校の入り口が広がり、1年でしっかり考え2、3年で文理を選択し専門を学べる良い形になっている。
- ・日本史の授業について、暗記科目で講義式のイメージがあったが、グループ学習を取り入れていて、それが調べ学習となり、発表者に質問でき、活気ある授業となっていた。
- ・英語の授業については、先生が上手くヒントを与えて答えさせ、「できる」という達成感が生まれる様子がかげえ、生徒にとって良かった。
- ・車の校内乗り入れがなくなり、登校する生徒や交通整理の先生方が安全になり良かった。
- ・特活の行事は、生徒が自分たちで取り組み、作り上げている感じがしている。もちろん先生方の支えもあると思うが、良い形である。
- ・地域交流、部活動も盛んであり、今後、惜しかったサッカーにも期待します。

意見 5

- ・生徒たちは昨年より、大人っぽくなり落ち着いた雰囲気である。
- ・目が合うと会釈してくれ、笑顔で対応する生徒たちであるため、心がほっこりする。
- ・先生方が愛情を持って授業を作り、想いを持って指導にあたっている。
- ・各務原市の仕事に携わっていると感じることであるが、地元から巣立ってまた戻ってきてほしい。高校で良い学習をして、次のステップで育ち、戻って活躍できる人間になってほしい。
- ・各務原市では、学校外で町を考えるカフェという企画「いっぽカフェ」をやっている。高校生もそのメンバーに入って新しい風を吹かせてほしい。

本校からの回答と今後の課題

- ・本校の生徒の6割は各務原市の中学出身である。10年後、生徒が減っていく中、本校の弱点である「駅から遠い」を超える学校の魅力化を色々な意味で図り、それを市内だけでなく市外の生徒にも広く伝えたい。1つは部活動、1つは学校の教育力、加えて、各務原市の協力のもと実施している1年生の企業見学などの取組を様々な面で広げ、特色を出していく。
- ・高校生が市に意見を言う機会が作られ、本校だけでなく各務原の3高校の生徒会の生徒が、各務原市の人たちとの話し合いや共同企画ができるとよい。そういった活動を通して、将来各務原市に帰ってくるという土壌や、各務原市の良さを知る機会づくりとしていきたい。
- ・本日の貴重なご意見を今後の教育活動に生かしていきたい。